

水害とたたかってきた栃木県の歴史



洪水は、ニュースで見るだけの遠いものだと
思っていたけど、すぐ身近で起きてるのね。



台風がくると、大雨が降ったりして、
洪水になりやすいんだね。



栃木県の主な水害は、昭和22年のカスリーン台風による洪水、
昭和61年8月の茂木町の市街地が水没してしまった逆川の氾濫、
平成10年8月の県北部をおそった豪雨災害などがあります。
もちろん、被害があった川や橋、道路はきちんと直しています。
洪水は、最近(平成14年7月の台風第6号)でもおこっているの
で、気をぬくことなく、毎日パトロールをつづけています。

県庁のおじさん

洪水のようす

平成10年8月の豪雨



余笹川(那須町)

平成14年7月の台風第6号



田川
(宇都宮市)



水野川
(栃木市)



思川(小山市、JR両毛線 第一思川橋梁)

洪水は最近でも
おきているんだね。



栃木県の主な洪水

栃木県には多くの河川があり、むかしから毎年のようにどこかで洪水におそわれてきた歴史があります。

洪水の被害って、人
が死んだり、家が流
されたり、ものがこ
わされたり、こんな
に大きいものだった
なんて…。ほんとに
コワイわ。



とき	おもな洪水河川	被害の内容	被害の大きさ
昭和22年9月 洪水 (1947年) カスリーン台風	渡良瀬川・巴波川 田川・姿川 黒川・荒川	カスリーン台風の来襲により、9月14日から15日、山間部を中心にすさまじい大雨にみまわれ、渡良瀬川や巴波川などで堤防がくずれたり土石流が発生、多くの田畑や集落が濁流に飲まれました。被害の最も大きかった地域は足利市で、このほか、渡良瀬遊水地周辺、宇都宮、栃木、鹿沼、塩谷、喜連川方面にも大きな被害がありました。	死者 352人 行方不明者 79人 被害総額 85億円 家屋の流失・倒壊 2,417戸 浸水家屋 45,642戸 橋梁流失 256ヵ所 堤防決壊 1,204ヵ所 道路決壊 629ヵ所
昭和61年8月 洪水 (1988年)	逆川・小貝川 五行川・田川 荒川・那珂川 内川・帯川・蛇尾川	台風第10号の影響により、本県では、8月4日から5日、宇都宮市から栃木県にかけてすさまじい大雨となり、各河川は氾濫し、土砂災害とともに、記録的な洪水となりました。とくに茂木町では、逆川が警戒水位1.8m以上を上回る洪水となり、川が氾濫し、市街中心部が完全に水没してしまうという大水害となりました。	死者 6人 重軽傷者 66人 被害総額 520億円 家屋の全壊 36戸 半壊 99戸 一部損壊 79戸 床上浸水 1,849戸 床下浸水 4,965戸
平成10年8月 豪雨 (1998年)	那珂川・余笹川 四ツ川・黒川 帯川・蛇尾川・熊川 内川・荒川・武茂川	8月26日夜から27日朝にかけて、栃木県と福島県の県境付近を中心に記録的な豪雨となり、県北部を中心に県内各地の河川は氾濫し、堤防がくずれたり、土砂崩れがおきたり大きな被害をもたらしました。各市町村で床上・床下浸水の被害が発生したため、避難命令が出され、約110ヵ所、4,000人が公民館などに避難しました。	死者 5人 行方不明者 2人 負傷者 19人 被害総額 945億円 家屋の全壊 45戸 半壊 50戸 一部損壊 34戸 床上浸水 486戸 床下浸水 2,362戸